

# 香取遺産

▲山倉大神(山倉)の  
疱瘡神



vol.167

## えきびょう 疫病退散を願う ぼうそうしん 疱瘡神の石祠

近頃は新型コロナウイルスの感染拡大が社会に大きな影響をもたらしていますが、かつて大流行した疫病に関する石造物として「疱瘡神」の石祠があります。

疱瘡とは天然痘てんねんたうのことを指し、古くより日本にも存在し、かつては一生に一度はかかる致死率の高い伝染病でした。

疱瘡神は天然痘の脅威を神格化したもので、心安く鎮まっつてすみやかに去ってもらいたいと願いを込めて祀ったものと考えられます。

現在、市内の神社境内などで26基が確認されていますが、宝永8(1711)年以降、各所で疱瘡神の祠が建立されていったことがうかがえます。特に18世紀後半に造立されたものが多いようです。罹患りかんした人に治療を施すとともに、疱瘡神の石祠を建立してその快癒かいゆを祈っていたことでしょう。

江戸時代後期ごろの日本では、すでに種痘しゆたうと呼ぶワクチン接種が試みられていましたが、その後、世界的に天然痘ワクチンの接種による予防方法の確立などにより、その発生数は減少し、ついには昭和55年5月にWHO(世界保健機関)が天然痘の世界根絶宣言をしました。

図 生涯学習課

☎1224



▶八坂大神(府馬)の疱瘡神